

伊丹まちなかバルについて

1. 主催 伊丹中心市街地活性化協議会
2. 開催状況

第1回	2009年10月17日(土)
第2回	2010年5月22日(土)
第3回	2010年9月19日(日)
第4回	2011年5月21日(土)
第5回	2011年11月12日(土)
第6回	2012年5月19日(土)
第7回	2012年10月20日(土)
第8回	2013年5月18日(土)
第9回	2013年11月2日(土)
第10回	2014年5月17日(土)
3. 参加店数と売上冊数

第1回	54店	1,500冊
第2回	80店	2,300冊
第3回	82店	2,400冊
第4回	93店	3,000冊
第5回	99店	3,100冊
第6回	91店	4,100冊
第7回	95店	4,400冊
第8回	107店	5,400冊
第9回	105店	5,000冊
第10回	112店	資料作成時実施中
4. 経費とその調達方法
 - ・収入 県の「まちなかにぎわいづくり一括助成事業」より50万円の助成(初回のみ)
マップは無料配布の為、売上があっても補助金返還対象とならなかった。
チケット代金の一部を運営費(※1)として徴収。
※1 次回のバル事業の経費にも充当している。
 - ・支出 マップ・チケット・ちらし・ポスター印刷費、いたみタウンセンターの事務費・広告宣伝費・オトラクの実施費用(第1回目はなし)
 - ・前回の換金差額で次回の運営費を捻出。2回目補助金等の金銭的支援を受けていない。

5. 実施体制

「伊丹まちなかバル」は店主、NPO 法人、行政、商工会議所が関わっている。伊丹市中心市街地活性化協議会の事務局 NPO 法人いたみタウンセンター（事務局長とアルバイト 2 名）が実行委員会の事務のすべてを担う。市と会議所が会議の出席や準備の手伝いを手分けして行うほか、前日には 4 名ずつ、当日には 6 名ずつ現場の運営に協力している。その他、多くの市民ボランティアも活躍している。

6. バルサミットについて

2009 年の伊丹での第 1 回開催以降、近畿地区では多くの地域でバルに取り組みられています。そこで、バルを開催した地域、これから開催しようとする地域の相互の情報交換を目的として、『近畿バルサミット』が開催され、『近畿バルネットワーク協議会』を発足。

7. その他

- ・伊丹まちなかバルと同時に開催されるイベント

伊丹オトラクな一日（音楽イベント）街角、軒先、店内等で演奏

- ・マンネリ化への対策

音楽イベントの開催、お酒のふるまい、プレゼントが当たる抽選会の実施（第 10 回は伊丹の地酒 100 本プレゼント）

- ・質の維持について

参加店舗の審査なし 各店舗の料理の質は店へ直接帰ってくるので実行委員会としてはがんばってほしいと伝えている 店から相談があった時は助言を行っている

- ・兵庫県まちなかにぎわいづくり一括助成事業補助金

▽補助要件

- ・補助対象地区（被災市内において、以下のどちらかの要件を満たす地区）

- ・補助対象者（被災地域内に活動の本拠を置き、まちなかにぎわいづくりを主体的かつ継続的に推進できると認められる団体）

- ・補助対象事業（地域の特色に応じたまちなかにぎわいづくりにつながる新しい取り組みであり、対象事業項目のいずれかにあたる事業）

ア：地域内の複数の団体が連携し、地域全体を巻き込んで実施される事業

イ：大学との連携、企業等の協賛が見込まれる事業

ウ：地域の将来を考え、現状を変革するきっかけとなるような事業

エ：少子・高齢化や環境問題等、地域の抱える課題の解決が期待できる事業

オ：地域資源を掘り起こし、それを活用して地域の再生を図ろうとする事業

- ・補助限度額（1 事業当たり 10,000 千円）